

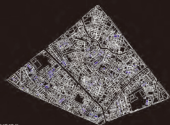
ハジマリの塔

—京島プロジェクト—

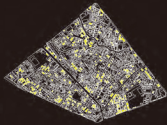
石倉 彩子



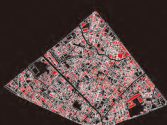
京島
東京都墨田区京島は昭和初期の長屋が
現存する古くからの下町。
無接道建物、耐火造でない木造建築、
耐震基準施工以前の建物が
多く分布する木造密集地。
多くの問題をはらんでおり、まちづくりの必要がある。
2011年にはスカイツリーが竣工することにより、
墨田区は「国際観光都市」の
実現に向け動きだし、
京島もその一部として発展していくだろう。



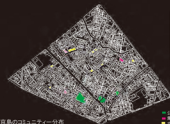
無接道建物



耐火造でない木造建築



耐震基準施工以前の建物

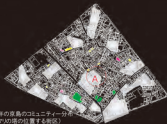


現在の京島のコミュニティ分布

京島2丁目3丁目	
総世帯数	2868
1街区の数	30~90
大きな公園の数	3
集会所	3
ポケットパークの数	3

現在のコミュニティ単位では
1単位の数が大きく
共同性で管理する意識は
芽生えにくい。

●公園
●集会所
●ポケットパーク



2040年の京島のコミュニティ分布
(ハジマ/07塔の位置する街区)

1街区の数
30~90世帯につき
1塔とし、
共同で管理する意識や
共同性を芽生えさせる。

コンセプト

カタチの始まりとナカミの始まり



密集した街区の中に13カ所ハジマリの塔を建てていく。シンボリックな塔が人も、周辺環境も誘導し、特徴ある塔のカタチが共同性を表出し、〇〇年後の京島のナカミの始まりとなる。塔の上部には日の見櫓、下部には住民の共同の倉庫、洗濯場がある。生活の一部をそこで行うことによって、塔が交流の場となり、また住宅にできた空きスペースが外部に開きかかるとなる。

A街区ハジマリの塔の展開

2010



■ 新耐震基準施工の建物
□ 耐震基準施工以前の建物
S=1:1000

2011



ハジマリの塔が建つ。
塔の下には住民たちの共同の倉庫、洗濯場が付随している。

2015



塔につながる
共同の食堂ができる。

2020



工場や美容室が改築される。
その際、周りの困っていた住宅を巻き込み住宅を増築していった。

2040



密集は緩和され
塔の周りには
広場も出来ていった。



洗濯風景



食堂風景



塔から外側をみると



塔の中



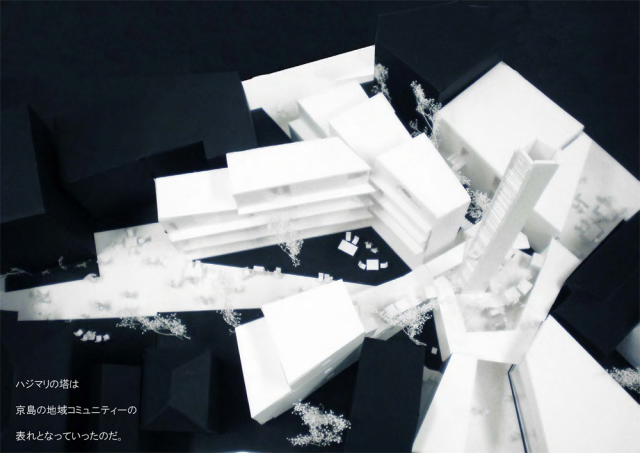
日の見櫓



塔の周りの人々

2040年

今日も朝から洗濯をしよう。お昼は皆でご飯を食べよう。街の外側は皆に開くにぎやかな場所。でも一人になりたいとき、光が降り注ぐ塔の中でひっそりと本を読もう。今日も日の見櫓に登ろう。自分の街を少しでも離れて見ることで新たな発見があるかもしれない。今日も明日も塔の周りで人々が暮らす。地域に根付いたハジマリの塔はそこでの生活を物語る。



ハジマリの塔は
京島の地域コミュニティの
表れとなっていたのだ。